巻頭言

時空を超える２つのワープ

松下電器産業株式会社　取締役社長　　森下　洋一

ある時テレコミュニケーションの歴史をひも解いたところ、実は伝書鳩が最も古い通信手段の一つであることを知りました。こちらの出来事をいち早く伝えたい。あちらの様子をすぐに知りたい。この強い思いを託されて、通信筒を携えた鳩が、山を越え、海を渡っていったのでしょう。

■デジタル・ネットワーク社会の到来

鳩は郵便、電信、電話へと変わりました。さらにテレコミュニケーションは、デジタル技術、ネットワーク技術の目を見張る進歩により、社会を大きく変えるパワーを蓄えながら加速度的に発展しています。これを裏づけるかのように、デジタル化が進む放送と、広帯域化・大容量化する通信の融合する日が、すぐそこまで迫っています。家庭内でも各種の機器を結ぶネットワークが整備され、それが社会全体へとつながっていきます。

そして21世紀、私たちの生活の舞台は、いよいよ本格的なデジタル・ネットワーク社会へと変貌を遂げていくのです。そこではデジタル化された文字、データ、音声、映像を、だれもがたやすく蓄積、加工でき、ネットワークを通じて自由にやりとりできるようになります。それも瞬時のうちにです。まさに時間の壁と空間の隔たりが消滅するといっても過言ではありません。

■「タイムワープ」と「スペースワープ」

このような社会にあって、私たちのライフスタイルは確実に変化していきます。それは新たな生活文化の誕生と呼ぶに相応しい変化となるでしょう。この新たな文化を象徴する概念が、時間を超える「タイムワープ」と空間を超える「スペースワープ」なのです。

たとえばテレビ放送を、ある期間まるごとサーバーに蓄積すれば、見逃した「あの時、あの場面」への「タイムワープ」が即座にできるようになります。ショッピングも変わります。テレビに映った品物を、その場のリモコン操作一つで購入できると

いったサービスも登場するでしょう。

それだけではありません。SOHOの進化でビジネスの効率化が一段と進みます。教育の分野でも時間と場所を選ばないインタラクティブな学習が可能になります。一例をあげれば、DVDとPCの連動で、動画や３次元のコンピュータ・グラフィックスを駆使した物理や化学のバーチャルな実験が、よりリアルに、いつでもどこでも行えるようになるのです。

また、デジタルテレビの地上波放送がはじまると、車で移動中、つまりモバイル環境にあっても鮮明な映像やデータを受信できるばかりか、これが次世代の携帯電話やカーナビゲーションと融合すれば、交通情報をリアルタイムで入手できたり、道路の状況や目的地の天候を、「スペースワープ」で動画とともに確認できるようにもなります。

さらにはケータリングサービスで食材を注文すれば、レシピがネットワーク化された電子レンジにすぐさま届く。健康管理に必要なデータが、家庭に備えつけられた測定器やチェッカーから間髪入れずに医療機関へと送られ、昼夜を問わず適切なアドバイスが得られるようになる。このようにワープがあらゆる場面で威力を発揮しはじめるのが、来たるべきデジタル・ネットワーク社会なのです。

■21世紀、ワープを世界に

はじめて鳩が放たれてから、すでに数千年の時が流れました。そして今、ワープという名の鳩が時空を超えて羽ばたこうとしています。

その醍醐味を一日も早く世界の人々にお届けしたい。そして新たな生活文化の創造に貢献したい。エレクトロニクスに携わる一人として、私はこう思ってやみません。

21世紀まであとわずかです。社会インフラの構築から、機器、システム、ソフトウェアの開発、さらにはサービスの考案まで、皆の叡智を結集し、ワープをどんどんかたちにしていこうではありませんか。夢を次々と実現してきたのがエレクトロニクスなのですから。